

宮城県の消防団で 始めよう。地域防災。



暮らしのそばで地域を守ろう。

消防団員募集

くわしい
活動内容は
中面をチェック!

地域の安全・安心のために、 災害に備える。

近年、日本各地では毎年のように自然災害が相次いで発生しています。
災害に備え、自分たちの地域は自分たちで守る活動が大切になっています。
そのために、消防団は地域に密着し、私たちの暮らしに近い場所で、
日頃から住民の安全・安心を守るべく力を尽くしています。

これからの時代、消防団は地域防災の中核として、
これまで以上に重要な存在になっていきます。
より多くの若い世代の入団が、経験や災害の記憶を未来へ伝え、
地域を守る大きな力へつながります。

さあ、一緒に活動してみませんか。消防団で始めよう、地域防災！



1 防災スキルが 身に付く！



防災の知識やスキルが身に付くことで、有事の際に自分や家族など大切な人々を守れます。

消防団で活動する メリット

2 幅広い人脈が 得られる！



消防団や消防署で活動する、幅広い世代、職種、地域の方とのネットワークが得られます。

3 就活で アピールできる！

学生の方には「学生消防団活動認証制度」があり、就職活動のアピールポイントになります。

4 企業イメージの 向上も！

企業にとっては消防団活動への協力がCSR活動につながり、企業イメージ向上も図れます。





POINT 東日本大震災における消防団の活躍

東日本大震災では、多くの消防団員が自らも被災しているにも関わらず、様々な活動に従事しました。

特に沿岸部の消防団では、大津波警報等が発令される中、住民への広報活動や避難誘導をはじめ、水門の閉鎖等の実施、津波浸水区域での救助活動やがれきの中での搜索活動及び大規模火災の消火活動を地元消防本部などと協力して行いました。

そのような中でも消防団員の方々は、本来の職業上のつながりを生かして通信設備や重機を確保するなど、色々な工夫をして活動しました。



気仙沼市消防団のがれきの中の搜索活動

阪神・淡路大震災での活躍で消防団の役割の重要性が再認識されるとともに、平成25年には「消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律」が施行され、近年、消防団は益々地域防災に欠くことのできない存在となっています。



日常生活では会社員、自営業、学生などの方でも、団員としての活動時には、権限と責任を有する非常勤特別職の地方公務員として扱われます。

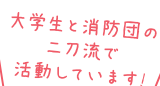


会社員、自営業、学生など



消防団活動時

非常勤特別職の地方公務員



幅広い方が参加できるよう、担当する役割を絞って活動することも可能です。すべての活動に取り組む基本団員のほか、自身の都合に合わせて活動を限定して取り組む機能別団員として入団することもできます。



基本団員

(すべての消防団活動を行う)

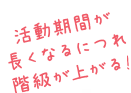
火災予防啓発・広報
大規模災害活動
バイク隊など

女性の団員・
学生の団員

機能別分団
機能別団員

特定の
消防団活動を行う

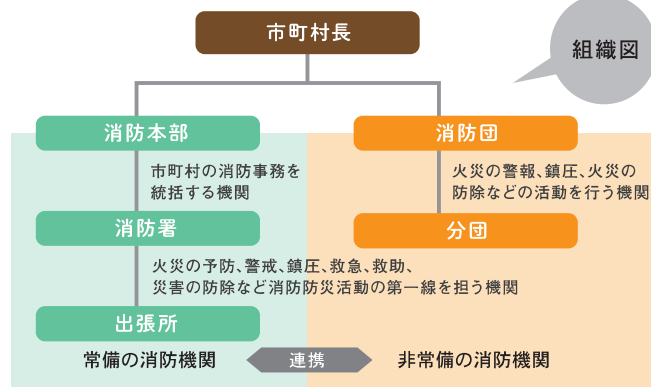
消防士、警察官、自衛官のような階級が定められています。具体的には団長、副団長、分団長、副分団長、部長、班長、団員の7階級。入団時には団員からスタートし、活動期間が長くなるにつれ階級も上がる形が一般的です。



團長
副團長
分團長
副分團長
部長
班長
團員



消防団は、普段さまざまな職業に就いている方が非常時に活動する組織です。会社員や自営業の方のほか、学生の方もいます。主に地元で活動することから、有事に備える地域防災の中核となっています。一方で消防署は、その仕事を本業とする消防士が常勤する組織となっています。





機能別団員・機能別分団

「消防団に入団したいが、仕事や家族の都合ですべての活動に参加することは難しい…」といった方がいると思います。そのような方々も含め、より多くの方が消防団に入団できるよう機能別団員・分団という制度があり、県内では15の消防団で導入されています(令和6年4月1日現在)。

機能別団員は、火災予防啓発・広報など、特定の活動のみに参加する団員になります。県内でも機動性に優れたバイクを活用して情報収集などを行う「バイク隊」として活動する機能別団員もいます。

また、機能別分団は、機能別団員と同様に特定の役割、活動を実施する分団です。女性団員のみで構成された「女性分団」や大規模災害時のみ活動する分団やドローン隊などがあります。



消防団員の処遇

消防団員に対しては、市町村の条例に基づき、労苦に報いるために年額報酬・出勤報酬が支払われます。また、報酬の他にも公務災害補償や退職報奨金が支払われます。

例 団員階級 年額報酬:36,500円、
出勤報酬:火災出勤8,000円(日/8h) など

年額報酬

消防団活動に
取り組んだことへの年額報酬

出勤報酬

災害や訓練時に
出勤したことへの報酬

公務災害補償

消防団活動中に
負傷した際の補償

装備等の貸与

制服や
活動服などの貸与

※処遇は、各市町村、階級等により異なります。

消防団の装備・資機材

消防団は、消防ポンプ(ポンプ車・小型動力ポンプなど)、無線機器、火災鎮圧用機具(ホースなど)、救急救助用機具(応急セット、エンジンカッターなど)、避難誘導用機具(警戒ロープなど)、安全装備品(防火服、防火帽、防火用長靴など)等を用いて、地域の安全・安心のために活動しています。



消防団への入団資格

18歳以上の健康な方で、その地域に居住・通勤(通学)されているのであればどなたでも入団可能です。

市町村によっては、基本団員と機能別団員を自身の都合に応じて選べる場合がありますので、詳細は各市町村の消防団担当課にお問い合わせ下さい。



消防団員の活動内容

消防団は、火災の消火活動をはじめ、地震や風水害といった大規模災害発生時の救助・救出、警戒、避難誘導などの様々な災害現場で活躍しています。

災害発生時以外にも幅広い活動を行っており、住民への防火指導や応急手当の普及指導、火災予防広報などに従事しています。また、近年、女性消防団員や学生消防団員も入団者が年々増えてきており、生活スタイルに合わせて幅広く活躍しています。



年間スケジュール

※スケジュールは一例で、市町村により異なります。

1月

2月

3月

4月

5月

6月

・消防出初式

・応用訓練

・春季火災予防運動

・辞令交付式

・消防団員研修会

・消火訓練

・林野火災防ぎょ訓練

・風水害対応訓練

・6.12防災訓練



災害時の活動

消防団は、火災が起こった際、自宅や職場から現場へ駆けつけて消火活動を行います。消防隊よりも先に現場に到着することもあるため、初期消火をはじめ消防隊員の後方支援や現場警戒など、その場に応じて活動にあたります。

また、地震や風水害などの災害が発生した際も現場へ駆けつけ、各災害の対応にあたり、地域内を巡回しながら被害状況の確認や危険箇所の地域住民への避難の呼びかけ、誘導を行い、大規模災害発生時は、救助・救出も行うことがあります。



水防団活動

消防団は、水防団としても活動します。大雨で川が増水したとき、堤防の状態を見回り、危険なところが見つければ、壊れないうちに杭を打ったり土のうを積んだりして堤防を守り、被害を未然に防止・軽減するための活動を行います。



消防操法大会

消防操法大会は、日頃の訓練で培った迅速、確実かつ安全に消火活動を行うための基本的な技術を競う大会です。消防ポンプ車を使用した「ポンプ車操法」と持ち運び可能な小型動力ポンプを使用した「小型ポンプ操法」があります。



消防学校での教育訓練

通常行っている訓練のほかに、消防学校でも教育訓練が行われています。消防団員が災害対応に必要な専門知識と技能を習得し、災害時等に消防団員が積極的に活動できるよう各階級に応じた教育訓練が行われます。





消防出初式



PRイベント



消防団装備点検

7月

8月

9月

10月

11月

12月

・消防操法大会

・夏祭り警戒
・花火大会警戒

・救助訓練
・9.1防災訓練

・消防団装備点検
・消防大会

・秋季火災予防運動

・年末夜間警戒



🏠 平常時の活動

平常時は、消防団員としての基本的な訓練をはじめ、施設や機材の整備点検、地域住民への訓練指導や火災予防啓発、地域の警戒活動などを行っています。

また、年間を通してさまざまな行事があり、代表的な行事として、年初に行われる消防出初式をはじめ、消防演習、火災予防運動（秋・春）での広報活動など色々な活動が行われています。

学生消防団活動

近年、消防団員が減少し、高齢化が進む中、大学生・専門学校生等の消防団活動への参加が強く期待されています。学生消防団員は、消火をはじめ、すべての消防団活動を行う基本団員や、応急手当の普及指導や火災予防啓発等を専門に行う機能別消防団員として活動するなど、活躍の形態はさまざまです。



女性団員活動

お仕事をされている方をはじめ、学生の方や主婦の方など、多くの女性が消防団で活躍しており、年々増加傾向にあります。

消防団活動が多様化する中で、災害時の後方支援活動、避難所の運営支援等をはじめ、住宅用火災警報器の設置促進、火災予防の普及啓発、住民に対する防災教育・応急手当指導等、広範囲にわたる女性消防団員の活躍が期待されています。



消防団活動に取り組む背景は人それぞれ。地域防災にかける思いを尋ねてみました。➤➤

地域防災のやりがいを実感。

住民から声を掛けられ、

地元の神社の祭事に参加。

塩竈市塩竈消防団 基本団員
A・Sさん(19歳) 短大生

01 INTERVIEW

塩竈市塩竈消防団の基本団員として活動しています。入団のきっかけは、学校の友人から「地元の消防団に入っている」と聞いたことです。私自身「将来は消防士になりたい」と考えていたため、以前から興味を持っていました。しかしタイミングが合わずに未入団のままでした。

そんな中、友人から消防団の雰囲気や訓練内容の話を聞き、魅力を感じて入団を決意しました。いまは毎日が充実していると実感しています。将来にも直結するため、もっと早く入団すればよかったと感じました。

入団前は学校とアルバイト以外にコミュニティを持っていない状態でしたので、関わる人々も限られていましたが、消防団では年齢や性別を越えた出会いがありました。新たなコミュニティを持てたことが、多様な価値観や考え方を知るきっかけになっています。

活動する中では地元の大きな神社に関わる事が多く、季節ごとに行われる祭事の警戒活動などに取り組んでいます。特に神輿巡業の際は救護本部として参列者の方に行き、安全に巡行できるよう警戒に当たっています。活動中には見ず知らずの方から「消防団の方ですか?」とお声掛けいただくこともあり、地元の方との心の触れ合いを通じて、地元の安全を守るという活動に対して「やっていてよかったな」と感じます。

入団前にポンプ操法を見学した際には、先輩方がテキパキと行動する姿に心を打たれました。先輩方の動きからは、緊張感とともに責任感が伝わってきて、その姿にかっこよさと強い団結力を感じました。

PICK UP

目標は消防士として働くこと。
救急救命士資格取得のため勉強中。

現在は学校で救急救命士資格を取るための勉強に励んでいるところです。将来はその資格も生かせる消防士になりたいと考えています。仕事を通じて社会貢献したいので、消防団では消火技術など現場活動で生かせる知識や技術を身に付けたいです。



仙台市青葉消防団に基本団員として所属しています。入団したきっかけは、進学で都内から仙台市へ引っ越した大学1年生の時に大学内に掲示された募集の告知でした。それを見て団員の皆さんが地域を守っている姿に感銘を受けて一緒に告知を見つけた同級生と共に入団の申し込みをしました。

入団後は訓練、防火啓発、地域行事の警戒活動などに取り組んでいます。定期的に行われる訓練は、火災や水害などに備えた実践的な内容となっています。災害発生時にも迅速かつ確実に対応できるよう小型ポンプの操作や土のうの作り方などを学び、訓練を重ねています。また春と秋の火災予防運動期間中には地域を巡回するなど、地域住民の防災意識を高める活動も行っています。

活動する中で「地域の安全に直接貢献できている」と感じたときには、やりがいを感じます。緊急の呼び出しなどもありますが、先輩団員の方々に支えていただけるので大きな負担を感じることもありません。そういった中で心掛けているのは、幅広い方々が協力されたうえで成り立っている貴重な出会いや経験を大切に、感謝を忘れないということです。お世話になっている所属分団だけでなく、他の分団や消防職員の方にもご協力いただくことで有意義な訓練に取り組んでいると感じます。

PICK UP

伝統行事の階子乗りにも挑戦。 演技の足場を固める支え手に。

伝統行事である階子乗りに取り組んでいます。支え手として階子をしっかり固定することが私の役割。乗り手が思い切り演技できるよう、足場の安定感を心掛けてきました。分団長のお声掛けで参加しましたが、貴重な体験だと実感しています。



同級生とともに入団を決意。

地域を守る姿に感動し、

大学進学で知った消防団。

02 INTERVIEW

仙台市青葉消防団 基本団員
S・Sさん(24歳) 大学生

誇りを持って活動に尽力。

地元を守る一員となり、

父の姿に憧れて入団。



03 INTERVIEW

塩竈市塩竈消防団 基本団員
K・Dさん(33歳) 会社員

塩竈市塩竈消防団の基本団員として活動し、2023年から機関員を担当しています。入団の決め手は、やはり東日本大震災です。当時は学生でしたが、父親が消防団の一員として地元のために寝ずに活動している姿を見て、憧れを抱きました。もともと消防の仕事に興味を持っていたことから「少しでも地元の手助けになれば」と考えて入団を希望しました。

機関員としては市内巡回広報でのポンプ車運転のほか、車に搭載されている放水器具、発電機、可搬ポンプの点検などを担当しています。訓練ではポンプ操作や規律訓練を行い、出初式では機関員として機関操作も行っています。年4~5回ほど、火災現場にも出動しています。

活動時には放水時の圧力を調整するなど、自分の機関操作が団活動の要になっていると感じます。それだけに、機関操作には誇りを持って取り組んでいます。逆に自分の機関操作が活動の良し悪しを左右しかねない点が大変です。そのため、日ごろから点検や機関運用について勉強を欠かさないようにしています。

団員には普段仕事をしている方が多く、活動時も時間を割いて集まっています。しかし有事の際には、地元のために集まって精いっぱい活動しています。私もそんな消防団の一員になれたことを誇りに感じています。

何かあれば出動するという立場のため、職場や家族に対して迷惑や心配を掛けることもありますが、色々と応援いただいているので引き続き活動に努めていきたいです。

PICK UP

勤務先は消防団活動に協力的。
業務中に現場出動することも。

防災設備を扱う当社では、Kさんから従業員の消防団活動にも協力しています。私も含め地元企業の設備点検などを行う中、有事には消防団員として現場へ出動します。業務スキルが地域防災にも役立っていると感じます。

(東陽防災設備株式会社・代表取締役社長)

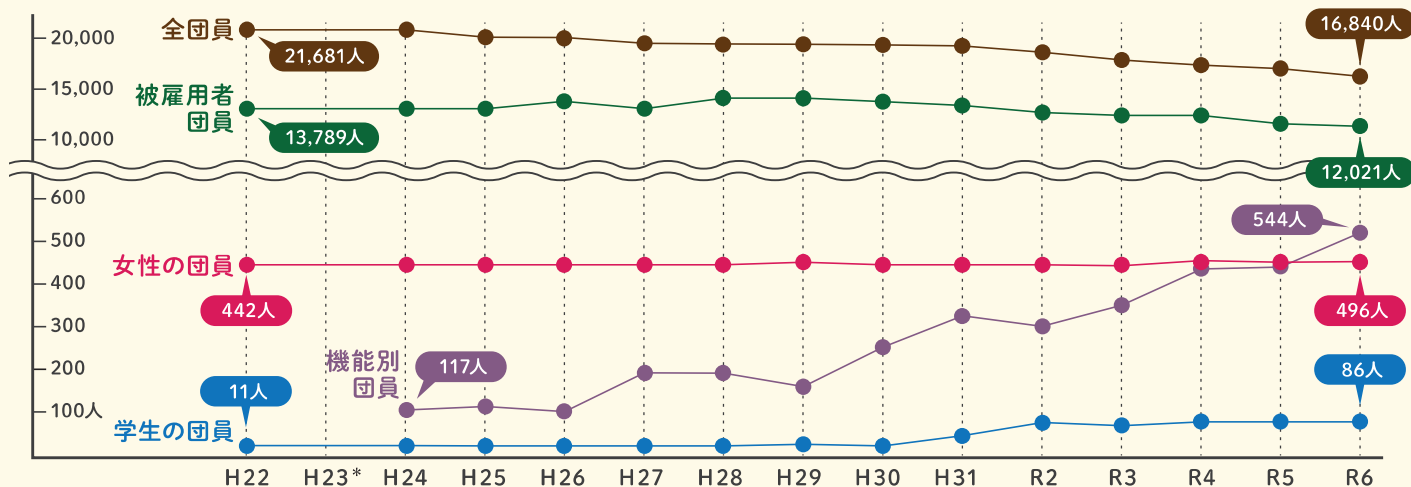
※写真右



宮城県内の消防団員数は全国と同様に減少しており、東日本大震災前（H22）から令和6年度までの減少率は△22.3%と全国平均△15.5%を上回っています。年齢構成は49歳以下が少なく50歳以上が多くなっていますが、令和5年度の入団者は41歳未満が過半数となっています。

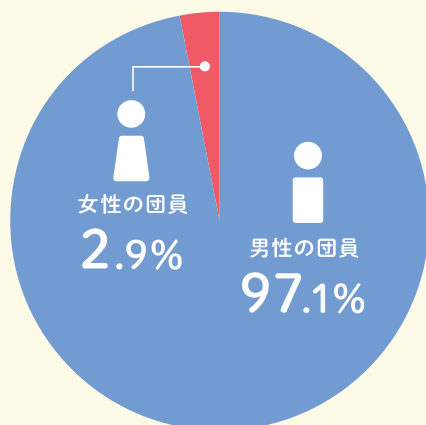
※各年4.1現在。円グラフはR6.4.1現在

団員数(人)の推移

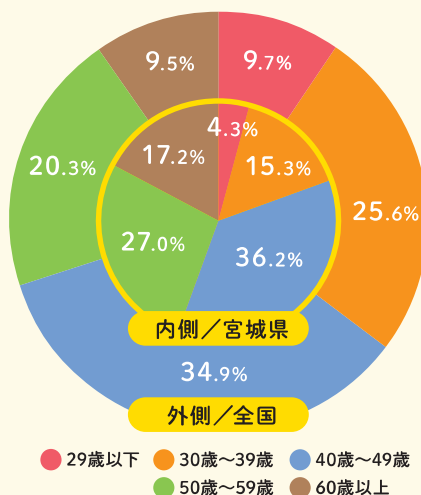


*H23は東日本大震災の影響により未調査

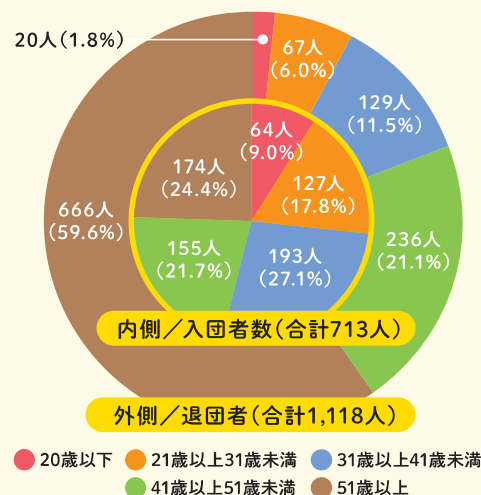
男女比



年齢構成比



令和5年度 年代別入退団者数



消防団に協力、応援している事業所

消防団協力事業所

消防団員の約7割を占める被雇用者が入団しやすく、消防団員として活動しやすい環境の整備のために、職場の消防団活動に対する一層の理解と協力が必要となっています。

勤務時間における消防団活動への配慮や従業員の入団促進などに御協力いただいている事業所（消防団協力事業所）には表示証が交付され、その社会貢献により地域防災体制の一層の充実が図られています。

宮城県内の導入状況（令和6年4月1日現在）



消防団応援事業所

宮城県では、地域を挙げて消防団員を応援し、消防団員のモチベーションの維持向上や、新たな団員を確保することで地域防災力の充実強化につなげていくため、本趣旨に賛同いただける事業所、店舗から消防団員やその家族に対して割引などのサービスを行っていただいています。サービスを受けるためには、買い物や飲食の際に「消防団員カード」を提示する必要があります。

登録状況（令和6年9月30日現在）



<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/syoubou/syouboudan.html>



消防団に入団する!

1 消防団を探す

【お問い合わせ先】の二次元バーコードより閲覧できる「宮城県の消防団」から、居住、勤務、通学している市町村の消防団を探します。

2 問い合わせる

入団したい消防団の連絡先に、電話やメールなどで問い合わせを行います。

3 入団の手続き

消防団窓口による案内に沿って手続きを行い、完了すれば入団となります。

お問い合わせ先

パンフレットに関すること

宮城県復興・危機管理部消防課

Tel.022-211-2373 E-mail : syobous@pref.miyagi.lg.jp

消防団に関するご質問・入団申し込み

居住、勤務、通学している市町村の消防団担当窓口へ。

宮城県 消防団

検索

宮城県内の消防団は
こちらの二次元バーコードから!
(総務省消防庁のサイトへリンク)



MOVIE 宮城の消防団の活動がわかる! 紹介動画公開中!!



「宮城県のWEBサイト」にて
消防団の紹介動画を公開しております。

宮城県のWEBサイトへの
アクセスはこちら!



協力: 仙台市・仙台市青葉消防団、塩竈市・塩竈市塩竈消防団、栗原市・栗原市消防団、
大崎市・大崎市消防団、気仙沼市・気仙沼市消防団、加美町・加美町消防団